

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100407		
法人名	サンキ・ウエルビィ 株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム玉湯		
所在地	島根県松江市玉湯町湯町1989-1		
自己評価作成日	平成25年5月20日	評価結果市町村受理日	平成25年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成25年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年6月開所。『福祉事業を通じて地域社会に貢献する』という会社理念を掲げ実践するよう日々取組んでいる。また、事業所の理念は、喜怒哀楽を頭文字に 共に『喜び合い』共に『努力し』共に『愛され』共に『楽しむ』としており、どんな時でも、利用者と共に歩み喜怒哀楽を共に分かち合える関係作りに職員全員で取組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、県下有数の温泉観光地に隣接した市街地にあり、川沿いの桜並木が居ながらにして眺められ、日常の散歩路ともしている。小学校、観光案内所、店舗なども民家と混在しており、車の往来で賑わいを感じたり、街の人々とも挨拶を交わす暮らしやすい環境である。開所して一年目であるが、利用者さん方と職員は、明るく笑顔で接しており、会話も自然で和やかな援助関係が築かれている。いくつもの開設を手がけた施設長が、立ち上げを行い、職員は新人からベテランまで気軽に意見を言える職場を実現した。職員はケアの向上のために意欲的に取り組んでおり、生きがいを持って働いている。利用者、家族とのコミュニケーションも円滑であり、法人が行った「顧客満足度調査」で表出された意見などについても検討しており、それぞれについて改善に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・職員共通の理念を掲げ、共有し日々実践するよう努めている。	「・・・利用者と共に喜怒哀楽を分かち合う・・・」の理念は、日々そばに寄り添い共に暮らすなかでの何気ない会話やふれあいの中で実践できたと思える時がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時に挨拶を交わしたり、近隣のスーパーに買い物に行ったりと地域との交流に努めている。自治会加入している。	利用者さんとホームから出かけて挨拶や会話を楽しんだりすることが地域へ向けての情報発信ともなる。自治会参加での、清掃活動を通して職員が地域にとけ込む事にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にむけて情報発信は出来ていない。今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は出来ていない。	開所後初めての運営推進会議を今年6月に行った。防災についての意見をいただき、地元消防団からの協力もいただくことになった。今後も隔月毎に開催するつもりだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松江市の担当者へ何かあれば報告・連絡・相談し連携を図っている。	25年4月に市の担当者が交代したが、顔の見える関係を築いており、開所からいろいろと相談に乗ってもらっている。制度的にも適切なホームを目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回、全職員を対象に研修を行い、身体拘束を理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、日中は玄関・出入口・非常口は施錠せず開放している。	玄関戸は開け放たれており、まさに開放感があるが、職員は利用者さんの行動を把握しており、危険な外出がないよう気を配っている。言葉での制限が拘束に当たらないかなども、意識を向けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、全職員を対象に研修を行い、虐待の防止に取り組んでいる。職員同士互いに注意を払いながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば家族へ制度の紹介等を行い、関係機関へ相談を行っている。職員に対しては研修等で制度の理解と周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に自宅訪問、又は来所して頂き重要事項説明書に基づき、解りやすい説明を心がけ理解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『顧客満足度調査』を平成24年10月に実施し、評価結果について職員会議で共有し改善に向けて検討を行った。また、家族が来所された際は利用者の近況や日々の様子を伝え信頼関係の構築に努めている。	家族が、訪れやすいよういつでも、笑顔で挨拶し、家族とくつろげるよう湯茶のもてなしをする。遠方からでは、宿泊もできる。その機会に利用者さんの園での様子を伝えたり、感想や意見をいただいて運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で提案や意見を求めると共に相談しやすい環境づくりに努め、コミュニケーションを図っている。	職員は上司にケアの向上や運営についての意見を言いやすい雰囲気があり、それを採用して運営の改善に役立っている。利用者さんの買い物や店から配達してもらい省力化を図るなど、意見を採用して実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取入れ、個々の目標設定することでやりがいや向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任研修を年間計画を立て実施し、職員の育成とケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とのネットワークづくりについては、今後交換研修等を行い課題や取組みを共有していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で本人に面接し現状を把握し本人の不安や困りごとを聴き、安心して入居してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際、家族の不安や悩みに傾聴し、緊急性の判断や適切なアドバイスや提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの際、『その時』必要としている支援を見極め適切なアドバイスやサービスの提示を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、買い物へ一緒に出かけるなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアを通して気づいた点や提案を家族に伝え相談し合う事で利用者の精神的な支えになって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントの段階で本人や家族に尋ね、本人の馴染みやこだわりを大事にしている。利用者がよく買い物に行かれていたデパートや映画館などに出掛けたりしている。	イベント担当職員が、アイデアをまとめて企画している。夫婦で行きつけのデパートに出かけた利用者さんは大変喜ばれた。好きな映画を映画館で見た利用者さんは長時間に及ぶ映画にねを上げて途中退館するなど、楽しいエピソードがたくさんある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に共に暮らす意識を持って頂ける様に利用者同士が助け合う場面を作ったりしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も近況を尋ねたり、入院先に面会に伺ったり関係を継続出来る様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位のケアが提供できているか振り返り、利用者の意向や思いに添うよう努めている。	ミーティングでのきたんのない話し合いで、自分たちのケアについて、振り返りと確認を行っている。日々変わる利用者さんの思いを理解することはできないという前提で、それでも、思いに添えたい、近づきたいという職員の姿勢がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの過程において、本人の生活歴や暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしさを大切に支援する為に、本人のできる力に着目し介護計画を立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	折に触れ、利用者・家族の意見や要望を伺い介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い状況の変化があれば見直しを行っている。	認知症のために思いを表現できにくい利用者さんなどは、家族や関係者から話をきいたりする。職員たちが気づいたことや意見をもとに、ケアマネージャーがその人らしく生きていけるようなホームでの暮らしを介護計画にまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をサービス提供記録・介護支援経過に記載し職員全員で状況把握と共有を行い、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、その時求められる支援に対して柔軟に対応するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招いて行事を開催したり、近隣のスーパーへ買い物に出掛けたり地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から、かかりつけ医との連絡を密に取り適切に受診や往診を受けられるように支援している。基本的に家族による受診を行っているが、代行や同行受診等にも柔軟に対応するよう心がけている。	調査時にも、管理者が利用者さんの病院受診に付き添って行った。職員がホームから出することは事業所にとっては負担ではあるが、利用者さんの健康管理の一環として責任を持って行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に相談し助言を頂き連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、早期に面会に行き病棟の看護師や連携室の医療相談員と相談し、出来る限り早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じ、重度化された利用者には医療面を含めて家族の意向を確認している。看取りケアについて検討しているが、支援に至ったケースはない。	開所から一年が経ち、利用者さんの中には、重度化を予測される方もおり、それへの準備と検討をしている。家族や主治医との思いの共有や、ホームでの看護師配置など前向きに取り組んでいくつもりだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、全職員を対象に救急法の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(夜間想定訓練)を計画・実施している。地域の消防団との連携や地域住民との協力体制は構築出来ていない。	防火設備はもちろん、法人からのバックアップもあって、マニュアルや実施面でも問題はない。今後は運営推進会議で提案のあった地元消防団や近隣住民との防災時における協力体制に取り組んでいく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員を対象に研修を実施している。職員ひとり一人が普段の声かけを振り返る事で常に利用者のプライバシーの保護に配慮している。また、入室時のノックや掃除等で入室する時も一声かけている。	職員の利用者さんへの話し方は、親切で優しい。利用者さんの着衣はきちんとしており、整髪など身だしなみも整えられた姿である。細やかな配慮が感じられ、一人一人が尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間には飲み物を自分で選んでもらったり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や日課を優先せず、その日の利用者にて体調やユニットの雰囲気に応じた過ごし方をするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の服装や外出時の装いを利用者と一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを利用者と一緒に行っている。本人の嫌いなメニューの時は、代替品を提供している。また、おやつは手作りで提供している。	昼食のお汁が熱くて家庭の暖かさを感じた。飲み込みにくい方や病気の方にも対応した献立や調理法を工夫するだけでなく、楽しくおいしい食事を心がけている。外食で時に気分転換をしており、利用者、家族に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の摂取量の把握に努め、食事が入らない時は代替できる物を提供している。また、水分摂取には特に注意し脱水への配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し口腔内の保清に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを利用し排泄パターンを把握し個別に排泄への援助を行っている。	入居してから3か月間ぐらいかけて、排せつの観察をして、無理のない自然なトイレでの排せつを目指して職員全員で取り組んでいる。普通の下着でいる利用者さんも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分摂取を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日を決めず何時でも入浴が出来るよう支援している。	入浴は、リラックスできて暮らしのオアシスになるよう、利用者さんの流儀を尊重している。一人で入りたい人にはそのようにしているが、職員は気配りを怠らない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のペースに合わせ自分の意思で休息したり横になったり出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認を行い、新しく処方される薬については情報を確認し理解するよう努めている。薬剤師による居宅療養管理指導を行い、症状の変化や副作用については適宜相談しアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品等の制限は行わず、気分転換を図ったり、楽しみのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事を計画し頻繁に外出を行っている。天気の良い日は歩いて事業所の周りを散歩したり個別に対応するように努めている。	市街地なので、近くには公園、店舗、民家などがあり、町の賑わいの中に日常的に外出できる。人々との交流の中で自然に地域に溶け込んでいこう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は金庫で保管しているが、お小遣いの範囲内でお菓子や本等を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されれば利用してもらっている。携帯電話を持ち遠方の家族と連絡を取り合っている利用者もあり、制限せず支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを行い、利用者が居心地良く過ごして頂けるように努めている。	ホールからは、窓外の風景が眺められ、町の賑わいを感じられる。オープンキッチンで職員が炊事をしている姿は家庭的で親しみが持てる。掃除が行き届き清潔で明るい空間で利用者さんはソファや和室などで、思い思いにくつろげる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやこたつを置きひとりで気兼ねなく、くつろげるスペースの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んで頂き、落ち着ける生活の場となるよう工夫している。	個室は専用であるが、床にベッドとタンスという少々殺風景なたたずまいである。もう少し個室でのプライベートな時間をも楽しめるようなしつらえを工夫してほしい。	ホームでの新しい暮らしを快適に過ごせるよう、利用者とともに、例えば、小テーブルとイスを置き、棚に雑貨などが飾られている、また、壁には落ち着いた雰囲気のパステリーなど・・・その人らしい空間を演出してみてもどうか・・・。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や動線を確保し安全に過ごせるよう配慮している。		